2013.12月
しいなぁ…ですの。
こたつtime
謙 ユネ

こたつでphirosophia、してみました。

哲学、ちょっと難しいかな？

難しい、ことでもあるけど
なぜ？を考えるのが、
そのココロたぶん…

あったかこたつにあたりつつ
白犬黒犬にいさん達、お話中

今年はそこに、もう一人…？

２０１３、１２　こたつ周辺にて

ここは　どこか　わからないけど、

あかいきれとふとんのかかった
コタツが　いちだい

そこで　黒白の２匹が　ちいさな ふぃろそふぃあ　しています。

・　・　・

なまえは　ふしぎ

いろいろついてて、いろいろな音
そこにひめたる　いみもいろいろ

どこかではじまり　ひろまった
どこで？　だれが？

ひとこえ　さっと　よぶだけで

いろんないみの　なにかがきたる
しかいに　こころに

どんな　なまえ　かな？
どんな　なまえ　つける？

あなたにも　ひめられたなまえ
ないかな　あるかな？

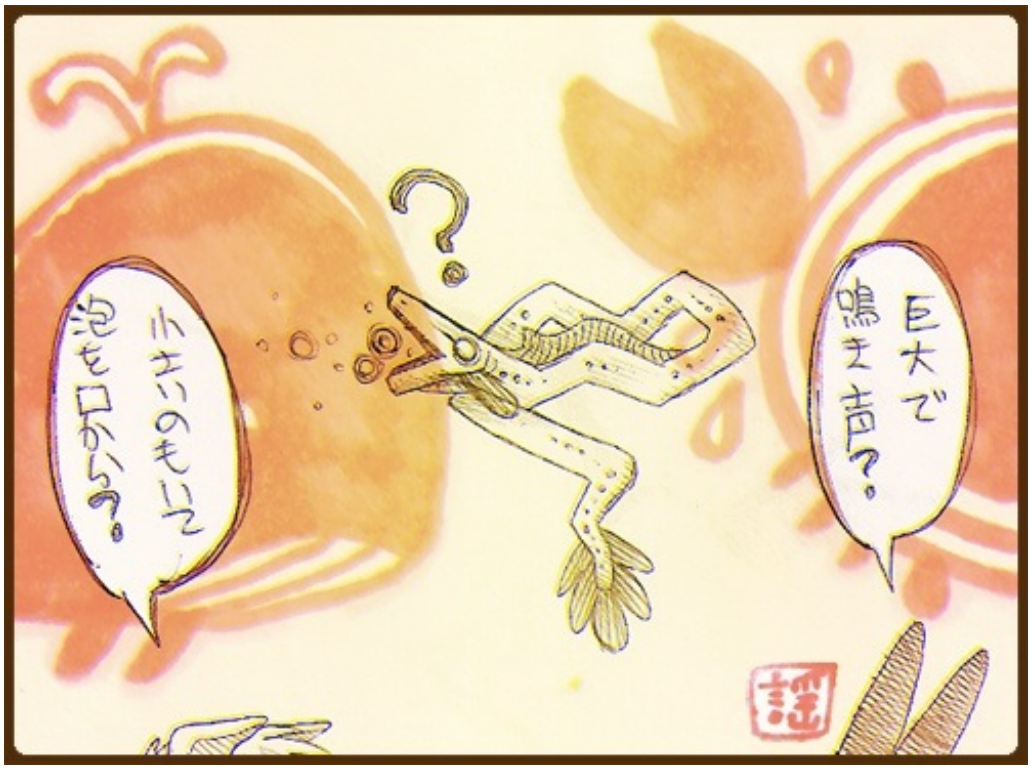
どんなかな…

「やぁやぁ犬先生だよ。
ちなみに私は、じつは犬先生（仮）なのだ」

「（…だれに名乗ったのかな）ええと、ラクシャです。
僕の名前は、犬先生がつけてくれたそうです。

どんな意味なのかな…」

あれ



「あれ」って、ふしぎ

あれは大きくて、不思議な鳴き声をしているね　と、このこ
あれは小さいのもいて、泡を口から出してたね　と、そのこ

このこの　あれは　かにさんで、
そのこの　あれは　くじらさん

でも大きくて不思議に鳴くなんて、どんなかにさん？
小さいのもいて泡を吹くだなんて、どんなくじらさん？

このことそのこの　あれがわかって
ああそうかって、わらったよ

思い浮かべて　またわくわく

あったかこたつの　そのうえを

へんげんじざい、不思議な歌声

泡を口から吐きながら

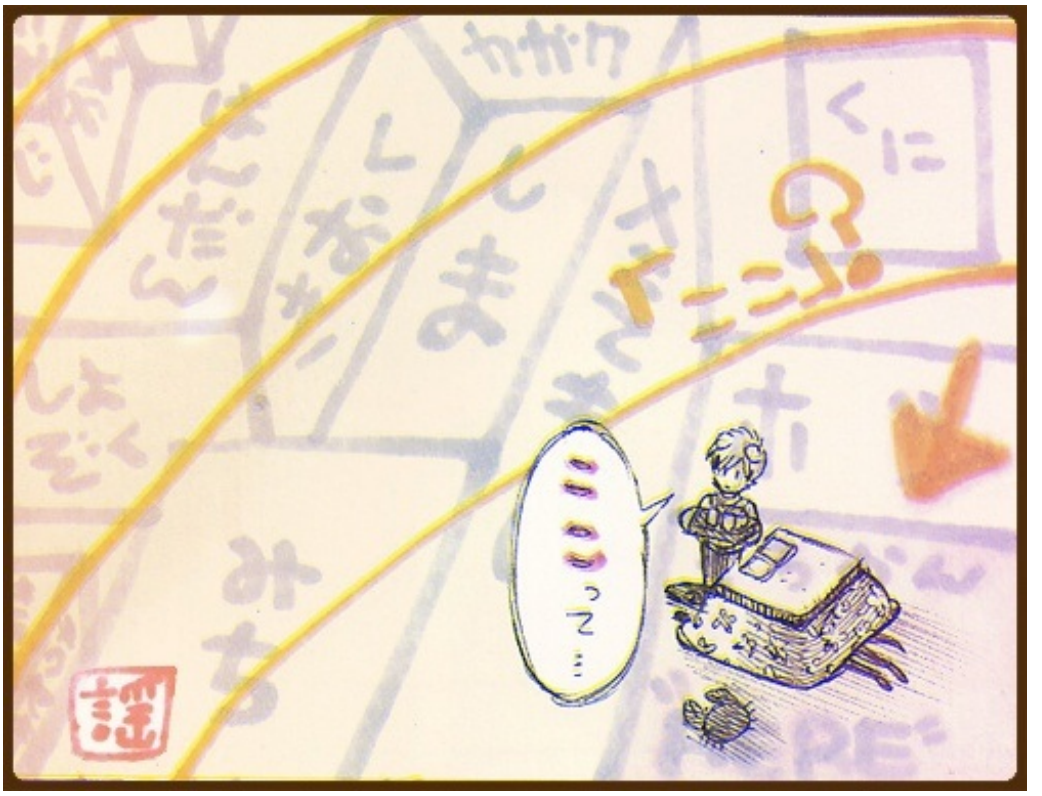
あれこれそれ、どれでもなかった　なにかが
ぬうぅっ…と　通り過ぎて　いきました

・　・　・

犬先生「あすこのあれ、そのそれと比べてどういう感じ？」

ラクシャさん「あぁっとそれは…ここまで出ているんだけど…」

ここ



ここ って、ふしぎ

にひき　こたつのそば
まっしろなくうかんの　なか

ゆっくり波打つ　しろい床のうえ
はてのしれない　天井の下　壁のよこ
いろいろただよう　なにかのあいま

テーブルの　あちら　そちら

たくさん　ことばは　でるけれど
いまいち さっと　いいきれない

いまいるところ　ゆびさしたところ

ちきゅうのうえで　ぐるぐるまわり

きおくの　なかを　ぶらぶらさんぽ

とけいと　ともに　だんだんかわり
ひとりひとりの　なかに　そとにも

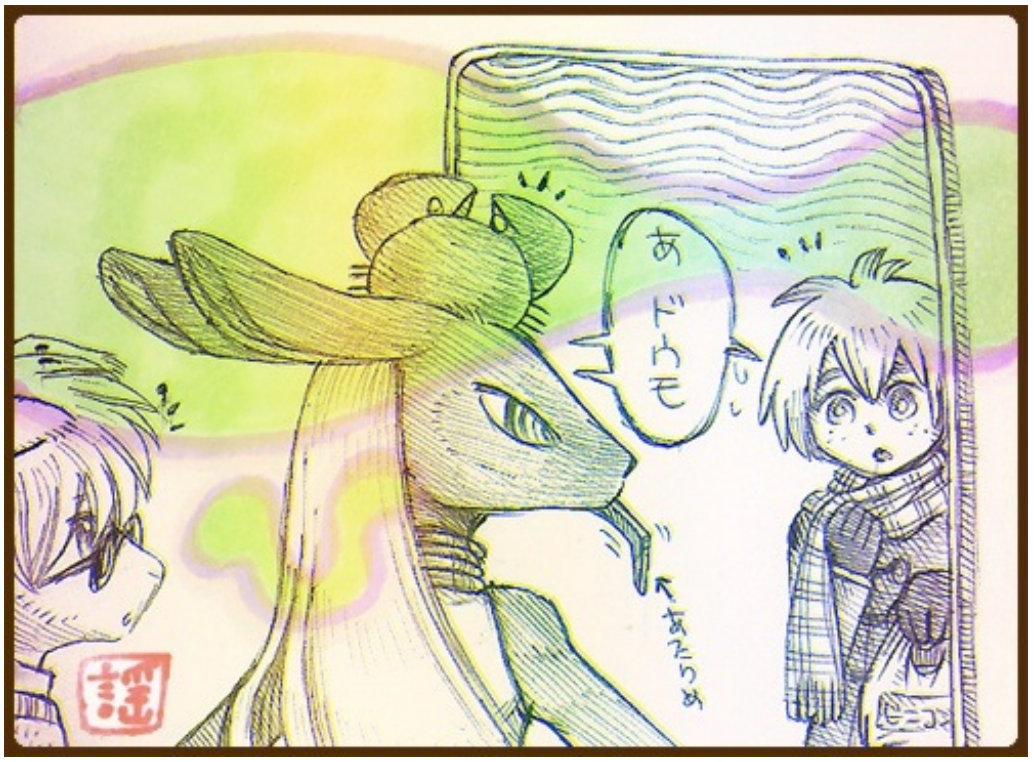
ここは　はたして　どこだろう？

・　・　・

犬先生「ここに素敵なジャーキーがあるのだが、どうかね」

ラクシャさん「わんわん！」

にとひ



にちじょうって、ふしぎ

まいにち　うごく　まいにち　しゃべったり、きいたり
まいにち　ねむって　まいにちこころが　なにかをおもう

そのまいにち や、まいにちのなか
じつは　べつのかたちの　なにかが　うかんでる、ゆききする

おなじようで　なにかがちがう　まち？
ちがうようで　なにかがにてる　くも？

にてひで　ひでにの
にちじょうと　ひ・にちじょうが

あしあとや　ひかりややみや　ごはんのすきまで
ふしぎに　あやしく　なぞめいて　たのしげに　さりげなく

みちのかず　ひとのかず　こころのかず
きづかぬうちに　こうさして　とびかっているみたい

そうして　そんな　みんなつつんで
ひろげりつづける　うちゅうのにちじょうは　なぞのまま

にちじょうと、ひ・にちじょう
きょうは、あすは　どんなかな？

・　・　・

犬先生「この間、玄関が我が指に挟まって大変だったのだ…
おや、新たなこたつびとが」

ラクシャさん「そうかぁ気をつけ……えっええっ
あ、はじめましてっ」

めいせきむ

明晰夢、ふしぎ

夢の中だとわかる夢
それでも元気な　謎めくものたち

誰もいない街に　猫の声のサイレン

スローモーションの　空行くポリ袋
のように　漂っていく人

知っているようで　思い出せない顔
の人　顔以外は長い 散歩する動物

そらゆく　ころがる　はじける　いろ　かたち
ごかん　ろっかん　すぱーく　たゆたい
無数の　夢遊の　探検したら
お腹が空いて　さあ帰ろう

さぁ、かえりみちは　どこにあるかな？

だんだん　おおきく　なにかの放送

駆けて駆けて　階段　回転扉　城壁

ﾊｯと起きても　ぼんやり、ぐる～り

ﾎｯとひといきする　くうかんに
見慣れない扉と　なにかのしっぽ

螺子巻きの音　せなかから
はたしていまは　どっちかな？

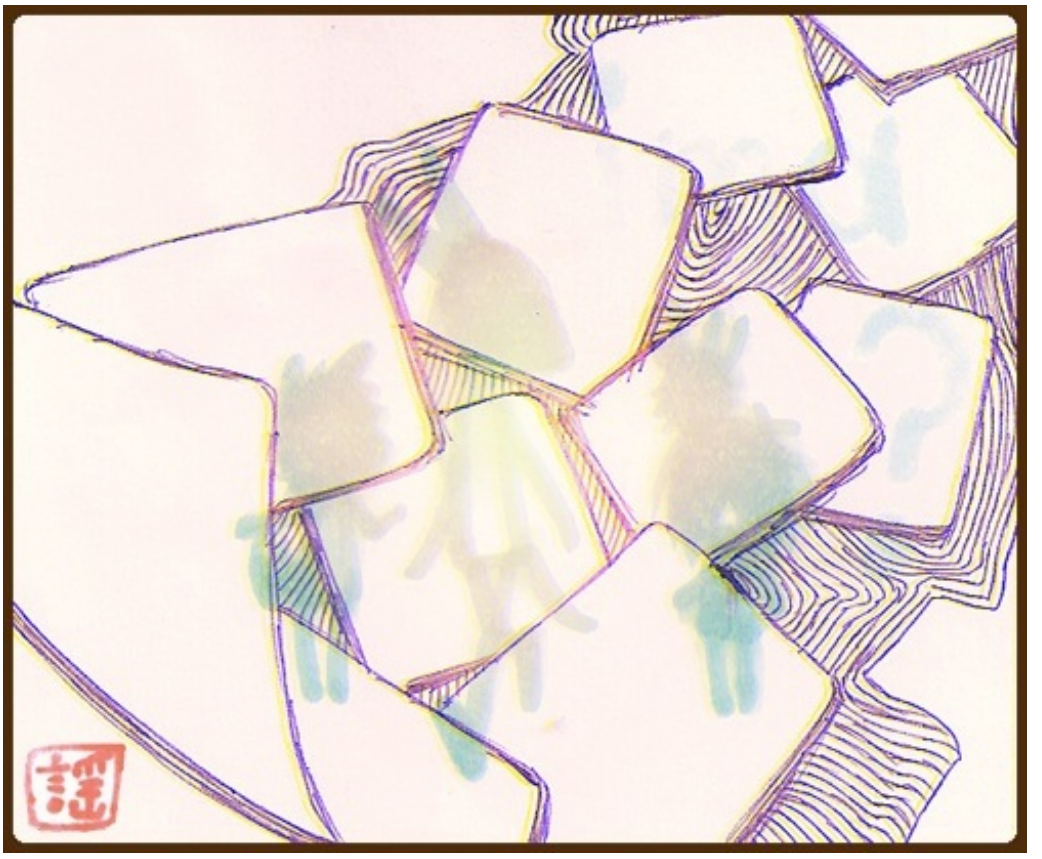
・　・　・

？？？「あれ、ここは夢の中かな…あっどうも、はじめまして。
カタミ、といいます」

犬先生「私は犬先生だよ。
ここは夢の中でなく、こたつの中さ めくるめく悠久の…」

ラクシャさん「僕はラクシャです。
さあさあどうぞ、お茶淹れるから」

いま



”今”って、ふしぎ

こくこくと　かこ
こくこくと　みらい

ずっと　とまらない
とまったら　どうなる？

まばたきする
おや、といっしゅん　かんがえる
かぜが　ふぅっと　ふいていく

その間にも　まるいつぶつぶ　しょうとつし
細胞　わにゃわにゃ　光　すいんと
みえる　みえない　つくられ　かわる

ほしが　周回　ぐるうんと
栄華のきゅうでん　樹木の遺跡
のしのし竜たち　骨が化石に

その間にも　まるいつぶつぶ　しょうとつし
細胞　わにゃわにゃ　光　すいんと
みえる　みえない　つくられ　かわる

ずっとずっと　今
今じゃないかこも、みらいも　星に
びっぐばんの　こどもたちが

そのうち　不思議な二匹が　今おこた

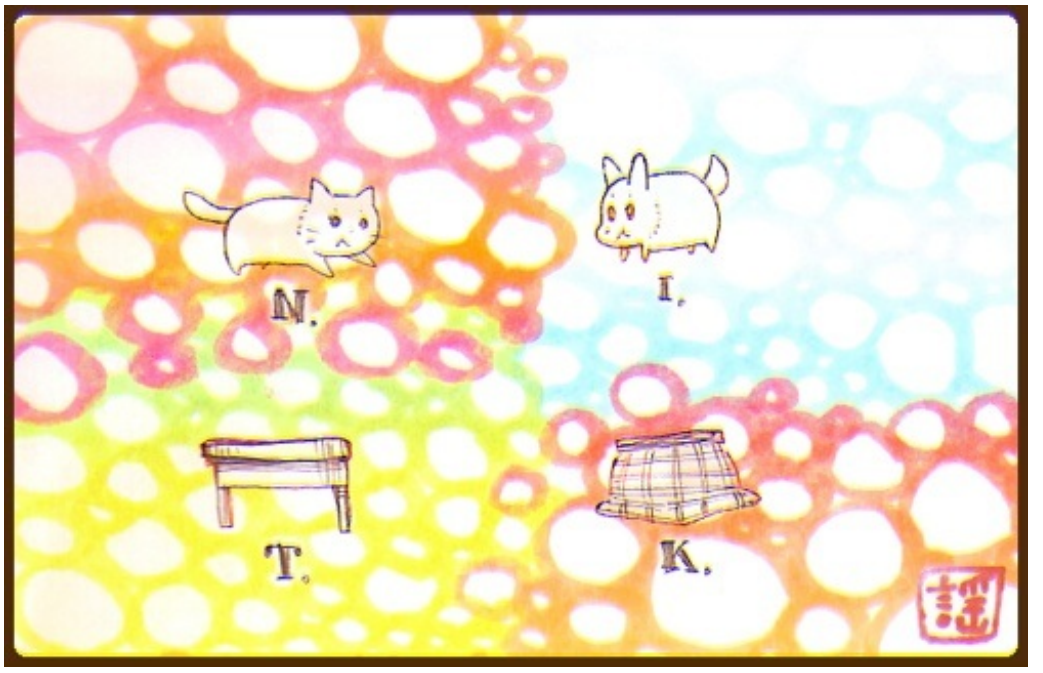
・　・　・

犬先生「こたつ増殖中…なんという アアルかっ」

ラクシャさん「アアルは、古代えじぷとの言葉で楽園だそうです。」

カタミ君「へぇ～今知ったなぁ！
犬先生お好きなんですね、こたつ。」

ぶんるい



ぶんるいって、ふしぎ

色、形、音、味、てざわり、かおり
うごき、イメージ、素材、雰囲気

にていることと　ちがいが　わかる

ねこさん　いぬさん　にてる
もふもふ・尾がある・全部のあしで　じめんをあるく

でも、特徴

いぬさん　すたみな　しっぽぶんぶん
ねこさん　じゅうなん　つめをだしいれ

それぞれこまかくあるけれど
もっといろいろ　あるけれど

にているところも　ちがいも　あいちゃく

つくえと　こたつも　にてる
うえでさぎょう・座る と、せっと・全部のあしで　ささえてる

でも、特徴

つくえさん　あしながやポケットもあって、ちょいクール
こたつさん　おふとんあったか、ぬくもりづつみ

それぞれこまかくあるけれど
もっといろいろ　あるけれど

にているところも　ちがいも　あいちゃく

さて　とおいとおいほし　なにかがいたら
にんげん　どんな　ぶんるい　かなっ？

・　・　・

犬先生「私は犬のようで犬でない者　その姿 幾千とうつろい…」

ラクシャさん「僕はどうやら犬のようですが、違うのかもしれません。」

カタミくん「ぼくは人間…なのかどうか、わからなくなってｷﾀ…」

そうき

おもいうかぶって、ふしぎ

テーブルの上、コーヒーの波打つ　白いマグを置いた

ゆげ　ゆわゆわと
香ばしさと落ち着く茶色さの　くおりあ

思い浮かんでくる　ぼんやりから、ゆらめきつつ はっきりと
次から次へと　うつろいながら

はじめて飲んだ、ブラックコーヒー
よし…とすすって　んぐ～っと

豆の名前いろいろ
ばいせんも、いろいろ

上にアイスがのってるメニュー！

キャラバンルート

まっかな実のなか　黄緑がかった真っ白な種

缶に入ったチョコレート

土曜日または日曜日

茶色の飴　そっくりな味

ココアも仲間かと　おもってた

猫舌だから さまして味わう

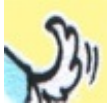
ひとだんらくして、てをすりあわせて
やっとあったか　どっこいしょして、

あったか飲み物　みつめるこころのどこかに

それにまつわる思い出、イメージの
覚えている間だけの　お散歩わーるど

どんなイメージが　やってくるかな？

・　・　・

 ラクシャさん「おぉ、茶柱がたっているっ」

犬先生「あぁ、蛇神アペプさんが浸かっておる…」

カタミくん「あれ…これってコーヒー、ですよね…？」

かげ

かげって、ふしぎ

ずうっと、いっしょ
どんな大きい　小さいものとも

そこらじゅうに
こころのむこうも

ぜんぜんべつの　ぞうけいから
ぜんぜんべつの　かたちもつくれる

ちょっとこわくて　なんだかたのしい

かげさんのほうは、どうなんだろう？

もんすたーがすまうのは　かげのせかい
かげぜんは、たびのひとを　いのりおもって

つきかげは　つきのひかりの　いみらしい

かげが　こければ　こゆいほど
おひさまさんさん　てるあかし

こたつのへりに　かいなかかげて
かげの　はとさん　とまったよ

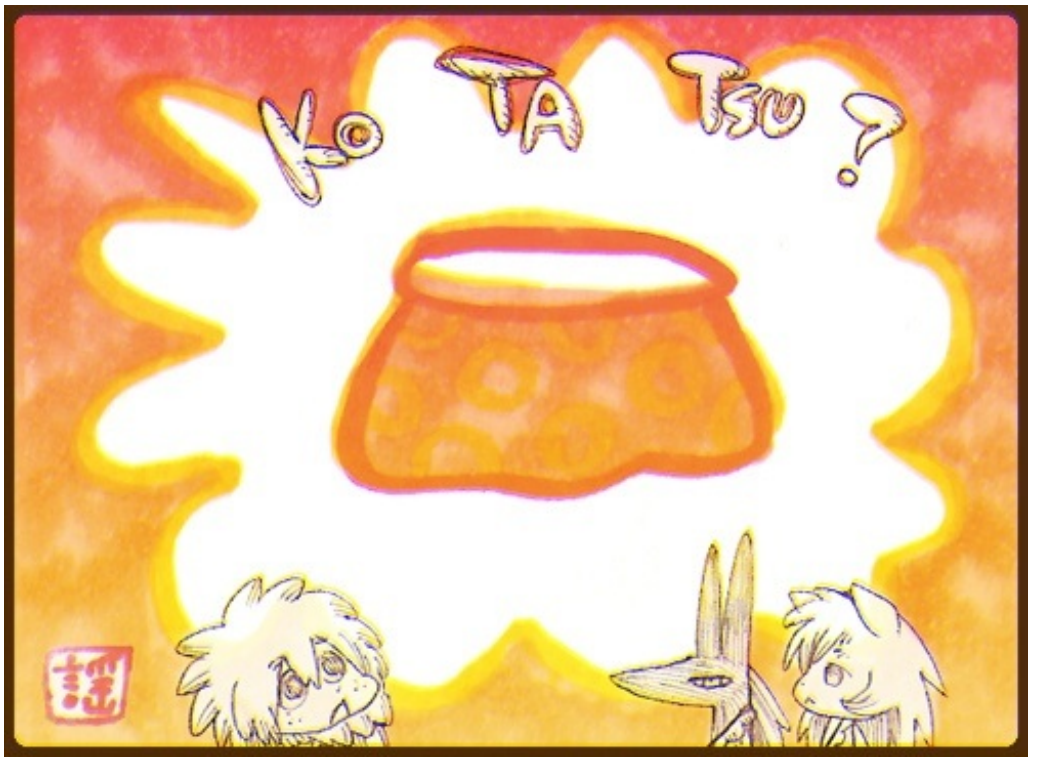
・　・　・

犬先生「かげの中には、我が眷属や無数の兄姉弟妹がおるのである」

ラクシャさん「一体何体いるんだろう…？」

カタミくん「あ、カニの影できたっ」

いっぱんか



いっぱんか、ふしぎ

「はやまったいっぱんか」の、ちょいとひとゆめ

むか～しむかしのココロびと　赤い鳥を３種類みた

「アカイ」　「トリ」と、２語が生まれて
”トリ ハ、ミンナ アカイ”　と、結びつけた

つぎに四角い草を５種類見つけたが、四角く育つ木はみえない
”キ ハ、ミンナ　シカククナイ”　と考えた

そのつぎ夜空に 見たことのない、虹色の星をみて
”ホシノナカデ　アレ ダケ　ニジイロ”もでてきた　あとに

中空にうかぶ きれのかかったしかく を　はっけんした
赤から色々 へんかして、重たげに空行く　へんなもの

「タコツ」、とひとびとは　名をつけた

それから空飛ぶ・にじいろの・しかくいものを見るたび

タコツ　デタ　と　肩よせあいつつ　空を見上げた

タコツがなにか、すべてﾎﾝﾄｳにそうかどうか、だと なにが あるのか
ゆらめく古代ｺｺﾛびとたちのなぞも　そのままに

きょうもこたつは存在している…

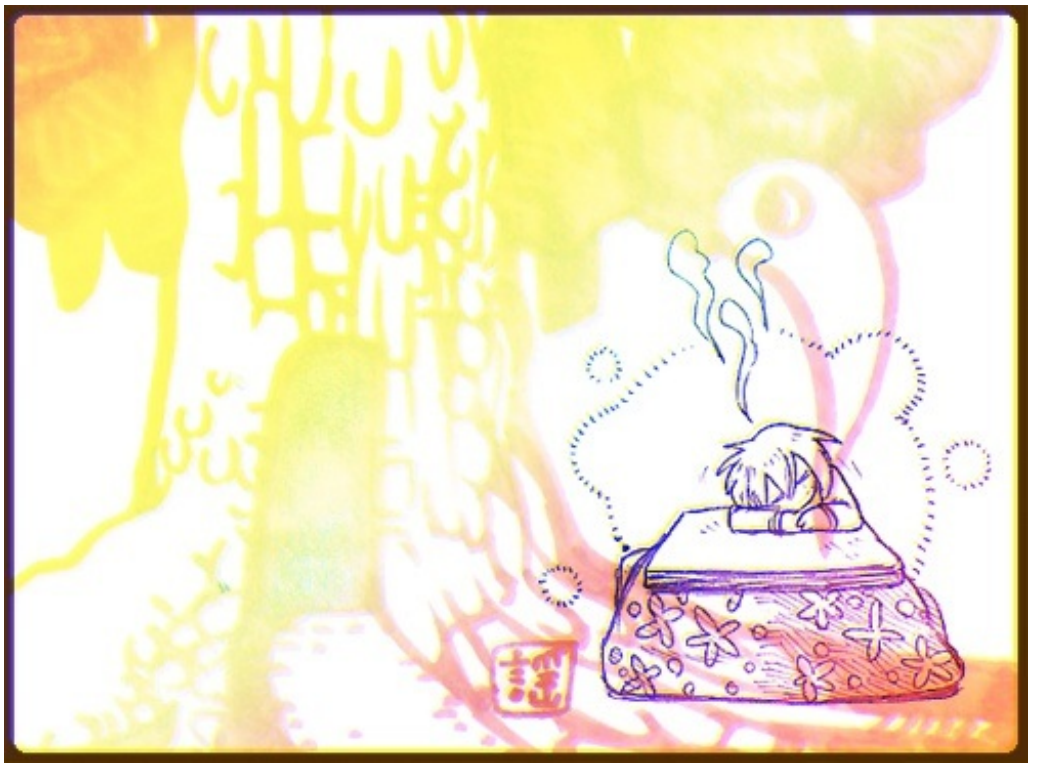
・　・　・

犬先生「タコツって、美味しいよね」

ラクシャさん「これはかれのジョーダンだよ」

カタミくん「ﾜｵ！」

はかなさ



はかなさ、ふしぎ

いきをひとふき　ふくうちに
なにかがさっきと　ちがってる

たかい空の あっちからむこう
動かないように見えていた雲　ながれていった

にじ　かげろう　まいおちる黄の葉

きょうりゅうじだいとにんげんじだい
期間をコインでくらべたら　１円玉の　厚みくらいと
いつか聞いた

記憶になっていくときのなか　あの武将さんも　もういない
まつえいさん　空想したら　はてしない気分にもなり

巻き紙　えんぴつ　海色の目薬

深い眠りの底の、なにかヘンな散歩道
目の前に立っている鶴が　めきめき　さわさわ　ぎぎぃと
しんぴてきな古樹に

ごあいさつで　いうには

わが齢　千にふたつと

あんなに　やさしい陽と風の下
あんなに不思議なそんざいさんに
いろんな古代のお話　聞いた　のに

めざめたとたんに　けむりのように　もうむこう

はかなさ　どうして　こんなにきになる？

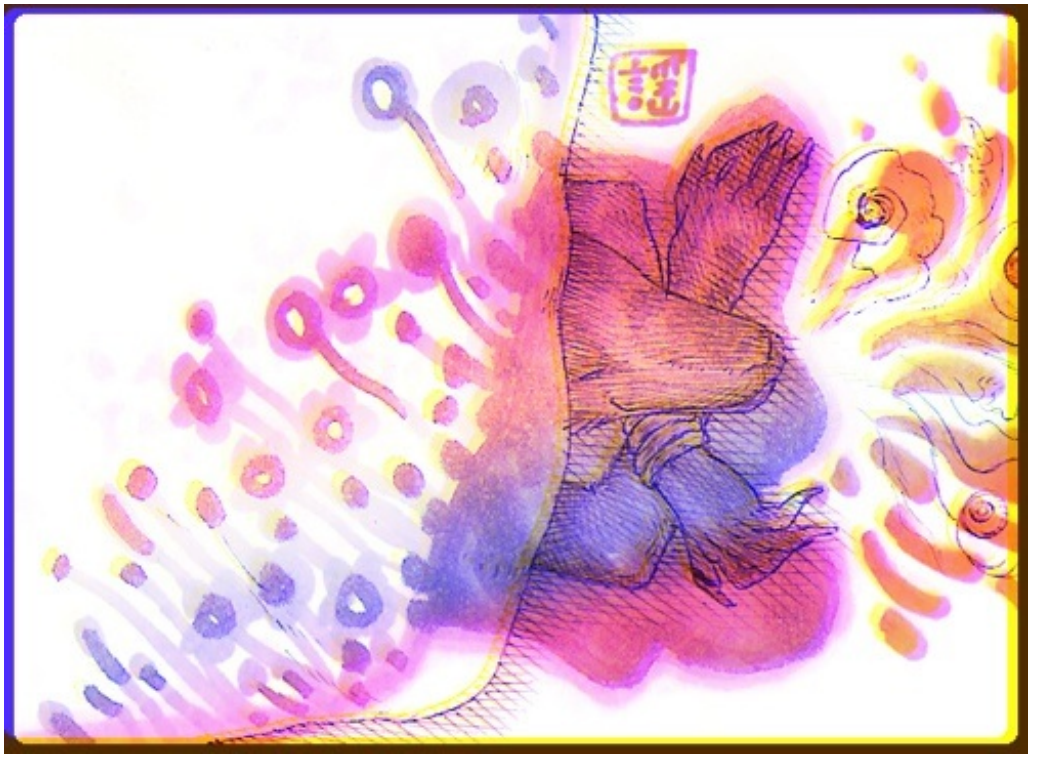
・　・　・

犬先生「永らく生きてると、モウあらゆることが儚いものだ
どれも まぼろしかもしれんがね…」

ラクシャさん「君はずっと謎だなぁ、犬先生」

カタミくん（昨日のご褒美ハンバーグステーキが儚いまぼろしだったら、イヤだなぁ…）

あにまる



あにまる、ふしぎ

たくさん　種類が　いるようで
さらに　新発見　されていて
いろんなことが　それぞれ得意

木登り　飛行　遊泳
とっても素早く　ちょうどいい
どれ位かと　真似してみたら
手足ひじひざ　すりむいた

草でも木でも土の中でも・石の間にも
あったかくてさりげない　おうちを自作
部屋なら掘って増築するし
べつの種類も　ときどき棲んでる

できること、できないこと　食べ物知識
工夫やキケン　いでんしのらせんでつたわり

極寒にも　熱砂にも　密林にも街にも　わいるど

どんどん種類が　へっていて
新発見より　そちらが多く　でも知らぬうちに
いろんなこと　いきしにしながら
やっと得意に　なってきたのに

なんだか やせて　最後の一頭　粒子の粗い白黒写真
イツカのドコカ　作られたイメージとは違う
りりしく静かで　どこか無邪気な　まなざしがつらい

ひとのあと　何百・何千・何億年後
闊歩するあにまる　考えた人々がいる

そのけしき、どんなかな？

おこたにまどろむ、あにまる

海に生きる粒粒からはじまり、哺乳類型爬虫類を経て
狼ともわかち、氷河期後を　ずっと一緒に来てくれた子孫さん

氷雪か、草原か、集落の灯りか
ついんで まどろむ　ｺｺﾛのどこかで

懐かしげに遠吠える、呼び声が響いた

・　・　・

犬先生「今この瞬間にも、進化となる変化が起きているのだ」

ラクシャさん「なにか変化しているかな？」

カタミくん「あ、窓に結露が」

もじ

もじって、ふしぎ

ぱきっとした色で　かきつらね
形と並びが　わかればわきだす

そのかたち以上の、その数以上のイメージ

世界中　いろんなかたち
覚えるにはちょっと難しい　けど、
魔法みたいで　なんだかわくわく

くねっくねっと　集合体
かけたら　なんだか　ひろがっていく
詩も　日記も　お話も
音楽や絵も　かたちをかえて

文字をもたない人々もいて
それでもうまく　おはなししていきる

古代の、今はもう まだ　読めない文字
人々　なにを　残したかった？

真白く四角いセルロースの上に
水と油と顔料・染料・ゲル化剤　の黒で
「こたつ」と　書いた

紙と、黒インク
それだけでできているのに　ふしぎだな

こたつがｺｺﾛに　ありありと

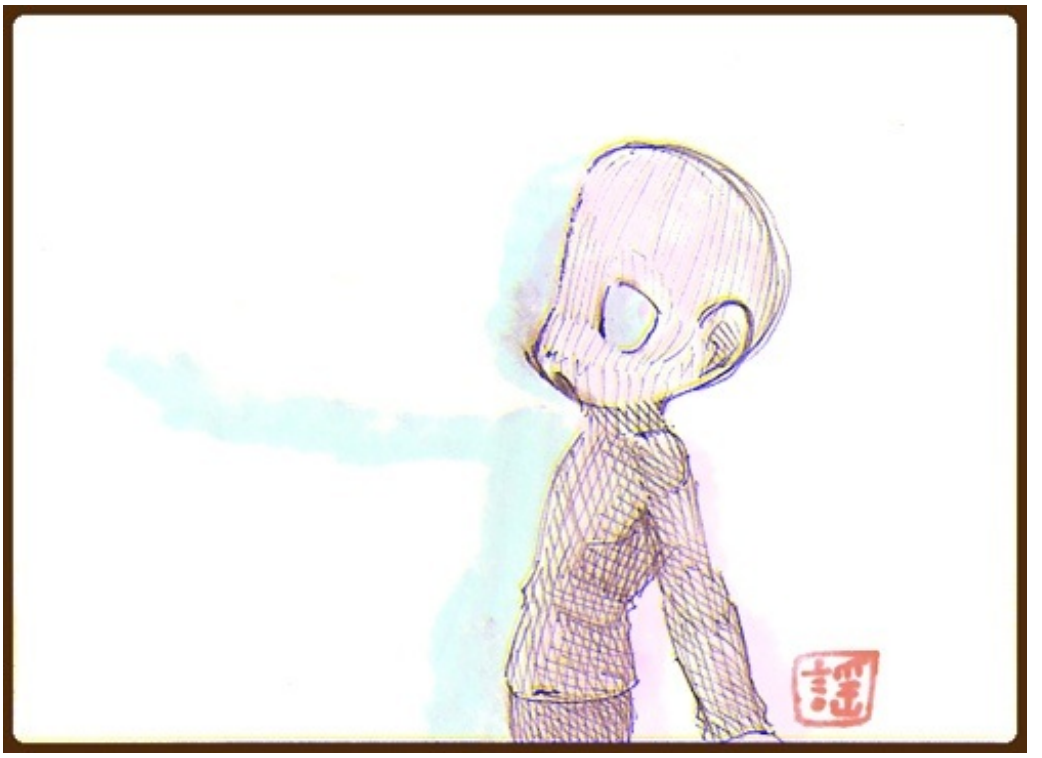
・　・　・

犬先生「私は様々な彷徨うカオス等で出来ておるのだ」

ラクシャさん「文字だと、何だか さらっとしてるね」

カタミくん「じゃぁラクシャさんは…
おぉっ尻尾ふっかふか〜」

ものとこころ



もの と こころって、ふしぎ

こころがからだの　どのへんにあるか
わからないけど　あるのは知ってる

こころで思いもしなかったことが
どこかで研究、発見 と　聞いた

生き抜くためにも大事なこころ
いきものそれぞれ　でんたつしあう
どんなおはなし してるかな？

もののなかには　ものがあって
空想とは　ようすがちがって
でもまたそれも　なにやらすごい

ものがたりは、では、もの？こころ？

ものにも　こころが　あるとしたら
どんなことを　話したいかな

ものとこころ　半身ずつ

こころの場所はしらずとも
ちゃんといきてる　はんぶん

ときどき　じぶんのことながら
みえずらくなったり　するけれど

もののきた道の　ひと粒ずつが
なんとかいきてる　はんぶん

ときどき　じぶんのことながら
むなしくなったり　するけれど

ものとこころ　内外のてとてで　はいたっち

・　・　・

犬先生「よし、我々もハイタッチしようじゃァないか」

ラクシャさん「くっ…身長が足りないッ」

カタミくん「おぉ、ではこの孫の手をっ」

つよさ

つよいって、ふしぎ

むいしきかの　どこかで
もうあるみたい　じぶんだと よくわからない

足がはやい　も、ひとつ
上手にできる　も、ひとつ
おもしろい　も、ひとつ？

ぜんぶなくって、ちょっとしょんぼり
しっぱい一杯思い出して、よけいしょんぼり
そんなとき

なんでもたっぷり　ぺろりとたべるひと
画面のなかから　にかっとしてた

せかい　いろいろあるけれど、
こういうこともまた　ひとつなのかな？

そのひとつ　きづいてなかった
じゃあもっと　あるかもしれないっ

ちょっとやそっと　いたんだモノたべても
おなかをあんまり　こわさない　も、ひとつ

ねむれないときに 楽しい・落ち着くひと工夫
そんな方法いろいろ知ってるのも、ひとつ

なぜかハトさんとねこさん・いぬさんがすりすりして来る
のも、またひとつ？

そして、もうひとつ

夜見る夢の先のきみょうな世界の扉
そのまた先の　こたつのにひきを　知っていること

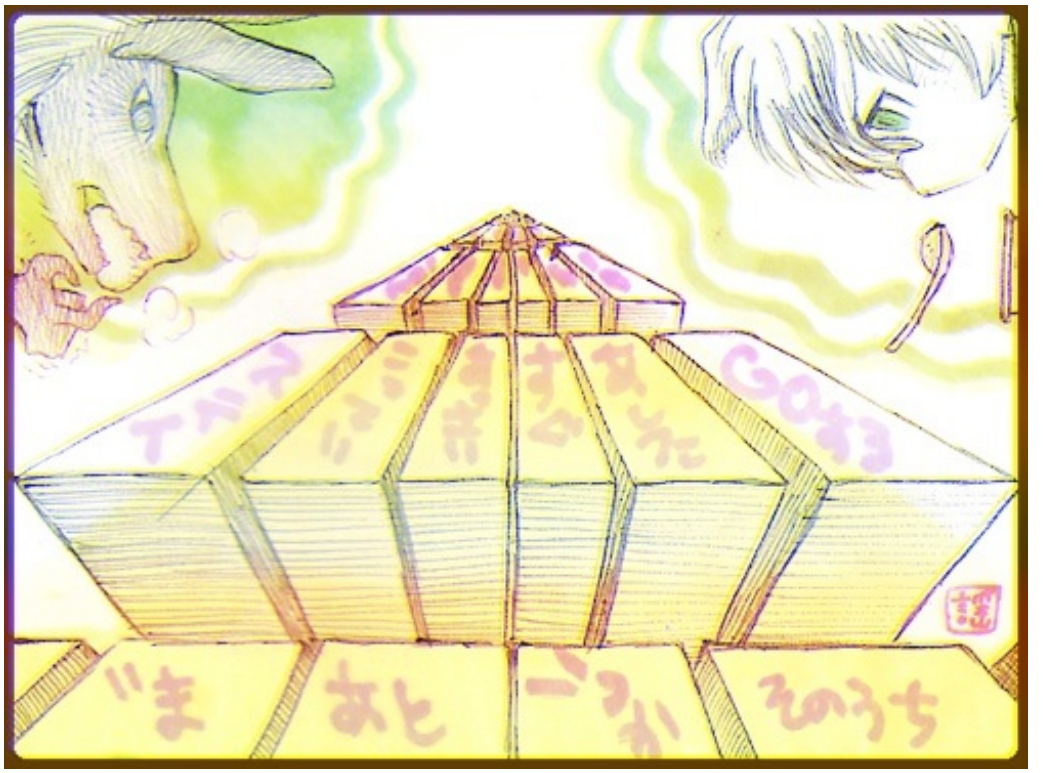
・　・　・

犬先生「カニの年齢がわかる　というのは、つよさだろうか？」

ラクシャさん「犬先生はその前に、奇妙魔法と魔域のてんごう心では…ホント色々とね…」

カタミくん（ふしぎ犬さんたち、どんなかこがっ）

えらぶ



えらぶって、ふしぎ

ひとつえらぶと、ひとつみらい
いっぱいいた、かのうせいのあれやこれ

朝のにゅーす　冷蔵庫にガス台

いただきます、の そのあとは
白ごはんから／お味噌汁から？

さっさっと、並べてみた

どっちの・どんな
色を選ぶ？

同じようで、日々違う空 の下の道
ショートカットと、景色がいい方

どこの道から行こうかな？

広がる宇宙の　その中銀河の
その中地球の　国の中の街

古代からの ”では、こちらで”
で出来た景色を、
今を選択する人々が　その選択が行きかう朝

おおきな　えたいのしれぬが　どこか照る　ときのなか

洗い物　おこたで休憩の
前かな？後かな？

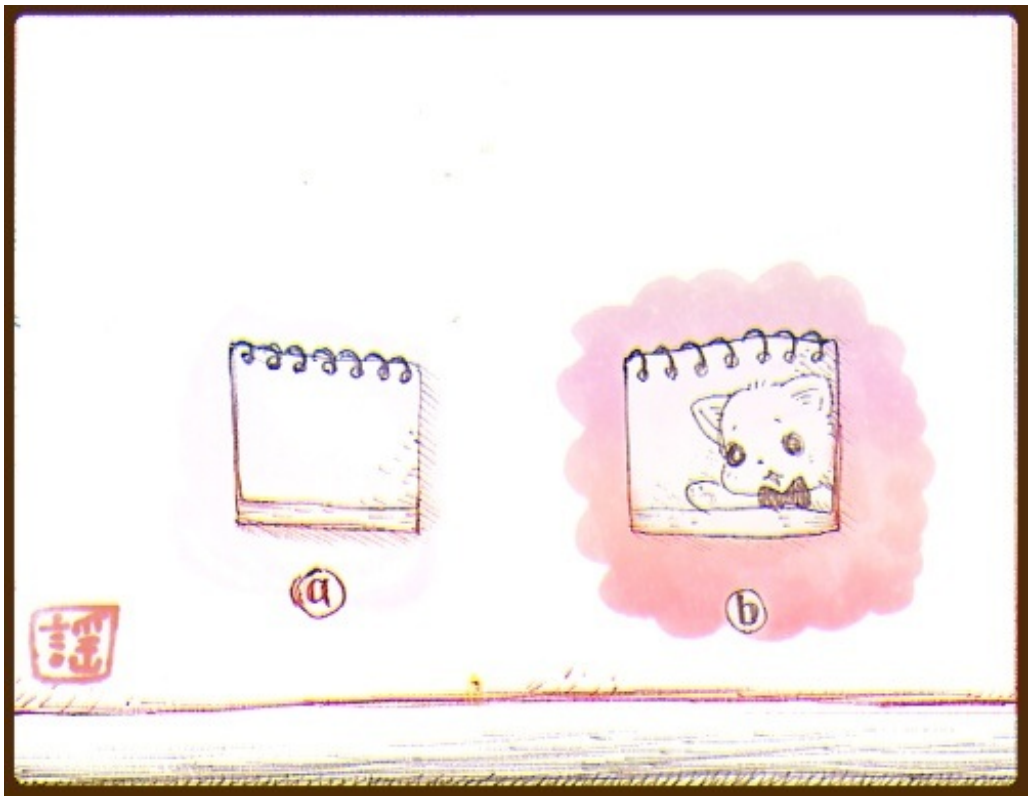
・・・

犬先生「思い切って洗ったら、魔法ずぼんの裾がヨレたのである…」

ラクシャさん「デリケートなんだね、魔法ずぼん」

カタミくん「はいてたんですね、魔法ずぼん」

ますこっと



ますこっと、ふしぎ

元々は幸運をもたらす人や生物　という、いみらしい

新しくしたノート　今回は
表紙に絵柄のあるのをえらんだ

いつもの水色もいいけれど
まんまるマスコットさん　いてくれると華やぐ

うきうきしながら　つづれる気がする

マスコットは　あらゆるところに
老若男女　それぞれに
持ち物にめじるし　つけている

日に日に愛着　じぶんのお守り

あれっ　いつのまにか　紐だけになってる
かわいかったのに　気に入ってたのに

ぽろんと街に転がり出たマスコットさんたち

ひっそりどこかで　ながめているかな？

次々出てくる　新顔
新旧でひみつの　ばとんたっち

だいじにしてくれたひとを　ふこうになんてしない
紐から放たれたら　旅立ちのときだから

傘の花が街中に　そのぶんしと　ぶんしのあいだを
まるっころ　かわいいものたち　はねまわっているよ

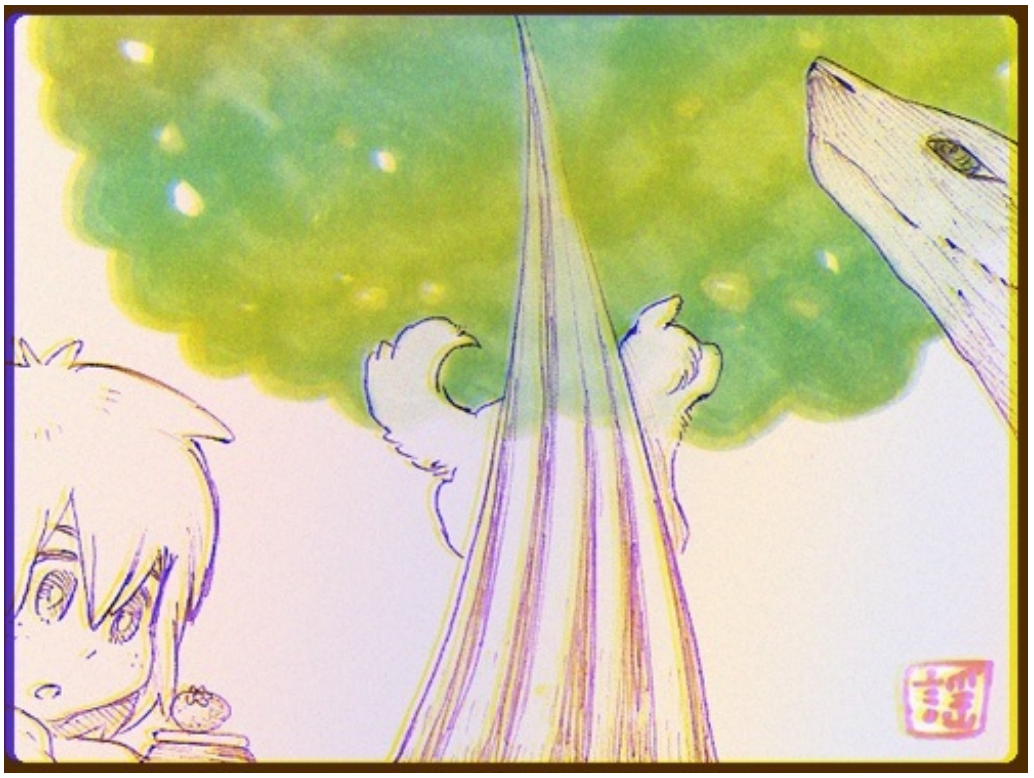
・　・　・

犬先生「ちと寒いゆえ、我々もいざ跳ね回らん！」

ラクシャさん「こたつごと跳ね回るなってっ」

カタミくん「温度少し上げるね～」

えだ



えだ、ふしぎ

かたちのいみでも、たとえのいみでも

お話がだんだん　伝わるうちに、
新しい枝　あちこちに

木の枝の生え方　大きく分けて４つらしい

しようと読んで意味を引くこと
枝という字の語源を引くこと

クックソニアの　あげた両手のような枝わかれ

せかいは　ほんすじと　派生した数多の虚構から成ると
聞いたのを　思い出しつつ

揺れる木漏れ日をみつめ　目をほそめて見上げ
木を音にしたら　どんなかな等　思いつつ

どれが もとかな？　どれが えだかな？

ｺｺﾛのどこかに繁茂する
既知と未知のえだが　それぞれの音で響きあう

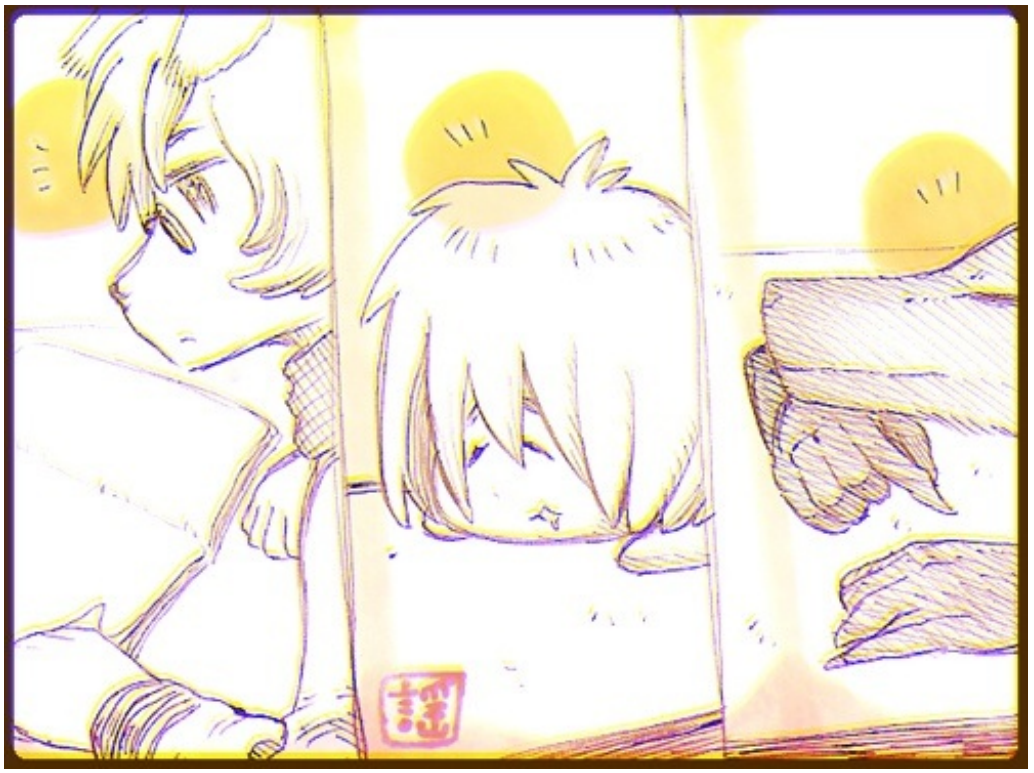
・　・　・

犬先生「未知の隙間が我がえなじー＆枝葉となるのだ」

ラクシャさん「どうやら犬先生、ツリーになりたいらしいね」

カタミくん「ではこの、まゆだまをっ」

ぱたーん



パターン、ふしぎ

元々は「繰り返す」と いう意味らしい

たくさんのなかから　使う事柄を抽出
脳の１８番　最近は　でじたる でも
少しずつ、だんだん どんどん

見ていて飽きない模様やかたち
さいみんもたらす模様やかたち

てれびげーむの勝ち技に、
洋服、和服の素敵な模様

みかんを　常にへたと反対の方からむいて食べるのも

コタツに入るときに　よいしょっというのも

あったかいお茶を飲んで　へぁ～っというのも、

なにかのパターンかな？

だれかのパターン、じぶんのパターン
しゃっふるしてみたら、どんなかな？

・　・　・

ラクシャさん「わ、わが名はラクシャである」

犬先生「ごきげんよう、僕は犬先生だよ」

カタミくん（ラクシャさんは緊張していて、
犬先生は不思議方向にノリノリだなぁ～）

ばらんす

ばらんす、ふしぎ

世界はそれで、なっている・ある　らしい

たべる数、たべられる数
晴れに、雨に、それ以外

思い出したいこまごま用事
フト景色をみたら、顔に見える形があった
気づいたら、吸引力

かう量、かわない量
かなしい日、うれしい日

オオカミさんがみえなくなって、
シカさんが　ふえている

どちらも　びっくりしたり、こわがったり、わいわいしたり

おこったり　呼んだり　たたかって　したしんで　生きてる　生きてた
それで　食べた　らしいのだけど…

ちいさいばらんすの集合体の、大きいばらんす　むずかしい

ココロのこぶねと　星間のちりと
ゲンキに闊歩する服飾と　蝉と月とチョコレート

靴下ぬぎ　足を解凍しつつ

空想のこたつを抽象画にしたり、思い出の描写にしたり

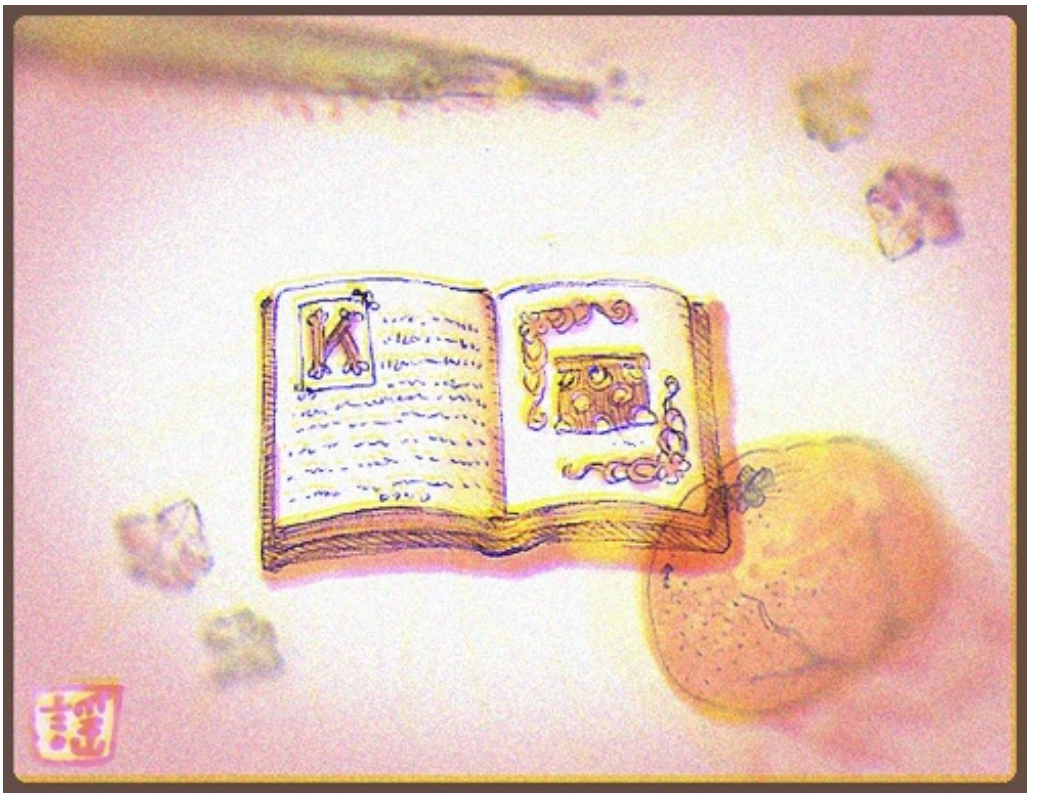
・　・　・

犬先生「私を図で表すと、細長い一本の棒線かも知れぬな…」

ラクシャさん「ずいぶん描きやすいね」

カタミくん「あ、指の形に線がへにょったっ」

ふぃるた



ふぃるた、ふしぎ

しゅしゃせんたくの　さまざまさ

ろかして　さあひとくち　の前
紙ふぃるた

この光のかんじ　なんだか素敵だなぁ
偏光ふぃるた

すうがくの世界の　るーるのひとつ
えっくすと、えふ

もひとつ　ひかりで、まもってくれる
ふぃるた りんぐ

物語のふぃるたを通すと、
日常の味わいが　ごちそうにもみえた

木漏れ日　べらんだ　からから風の音

ざるでお豆ざらりざらり　お山の写真の新聞紙
乾燥さして、空のいっしょうびんにつめていく

ぜんぶがおなかのなかで森になる空想しつつ

（今年もすぎてしまう）も、
（来年こそは）も、

ひょっとしたら　ふぃるたかな？

・　・　・

犬先生「私の中ではこたつは宝物認定である…ぶるぶる」

ラクシャさん「こたつフィルターだね」

カタミくん「ある意味、こたつトラップだなぁ～」

あじ

あじ、ふしぎ

５種類かと思いきや、１２種類が考えられていたそうな

そのほか 温度、かんしょく、カガクのしげき
探求と、工夫と、発見との　混ぜ込ぜが

粒になり、はこばれ、つどって、滋養に

しれつなたたかい　即席めん
進化しつづける　おやつの技術

じっくりことことな かまどにも、あこがれてみたり

へるしーもへびーも　ｺｺﾛとろけたり

高くてよいもの　いろいろと
それにもどれにも、歴史やいろどり

でも、なぜかな？

思い出のあのとき　目を輝かせて食べた
こんなおいしいもの他にないよ　と思ってた

あれが時々　むしょうにこいしい

風邪　９０てん以上　おたんじょうび　お正月

はじめて見た　はんてぃんぐの映像
どぎもつかまれて　顔をくしゃくしゃに
頑張りますっと画面向こうの　厳冬の森に　うったえつづけた 日

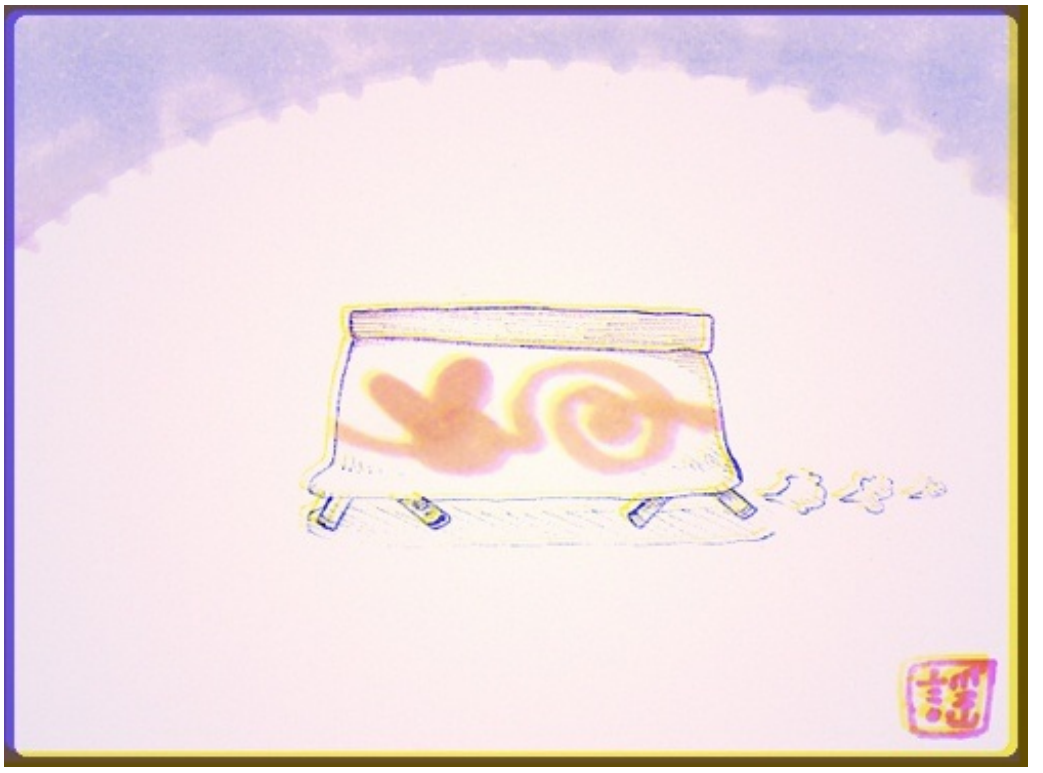
・　・　・

ラクシャさん「は～いオヤツ買ってきたよ～」

犬先生「おほっドカ盛りパルフェであるわ！ばりもぐっ」

カタミくん「おわ～さとうきびだぁ！」

せいめい



せいめい、ふしぎ

思いを馳せるほどに、はてしない　のに、日常

いっしょけんめい　やすまずかつどう
そとからみえない　ｺｺﾛと、ぞうき

いつから、うごきだしたかな？

すでに、なきひと　その細胞
つらい人々を治す研究のため培養されて、
今も世界中で　生きているらしい

１５００年以上生きているという　深海生物
数十分を生きて、わかれて　また生き出す細菌

しんぞうや のうをもたず　ぷろてろぞいく から
進化しつづけ　せいめいをゆうえいする　クラゲ

穏やかな虹色に 透けつつ反射するうみの宇宙を
空想しつつ

こたつから　おしりだけ出して尾を振る仔との
めぐりあわせを

白い息と共に 感慨にひたる

もし、こたつ に　生命がやどったら　どんなかな？

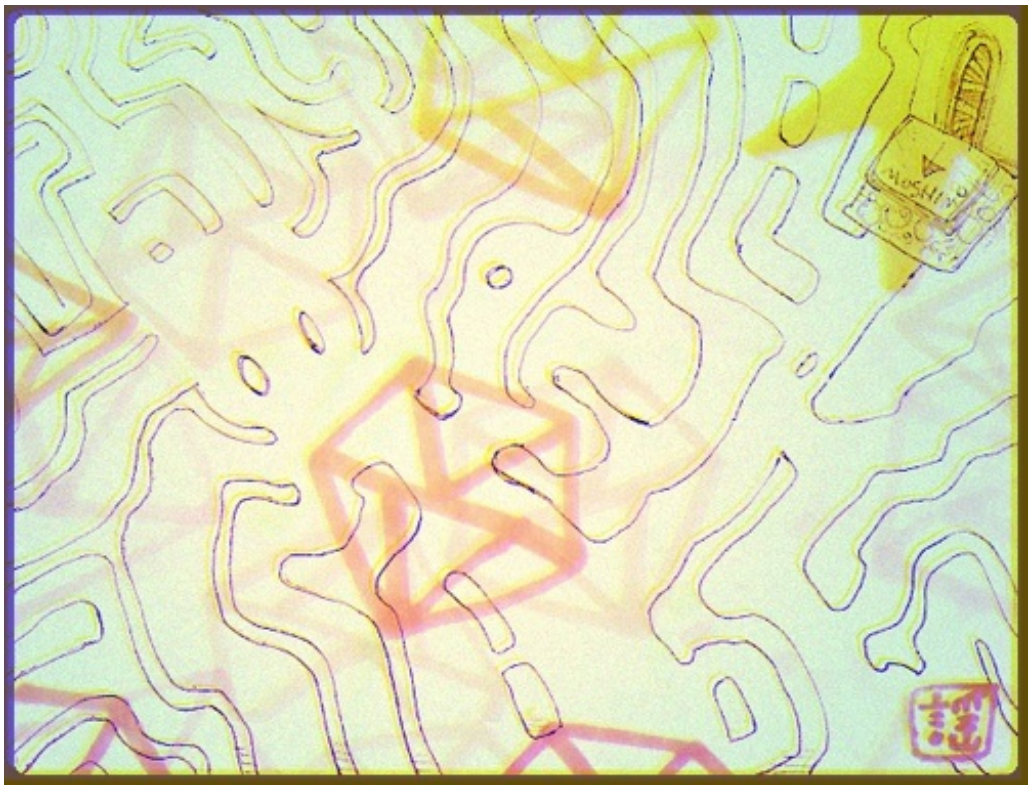
・　・　・

犬先生「私の腹には星々とそれ以外が入っておる」

カタミくん「それ以外ってなに？」

ラクシャさん「あの〜、ﾌﾞﾗｯｸﾎｰﾙ に僕の尾が吸い込まれて…」

もしも



もしも、ふしぎ

お手軽に、空想散歩への ちけっと

もうすこし で、ちからがたりず
（もしも　もっと　うまくできたら？）

ケーキ　しりめに、こしょうせんべい
（これがあの　生チョコなら？）

うまくいえず、あらわせず
（もっと的確に、楽しくでけたら？）

道の石粒　１点をみつめる　熱い鼻して
地球の石は地層で凝縮　崩れて岩　砕かれて砂　土　泥　やがて地層

それをくりかえして　ありつづけて　いるんだって

すっとんで、考えちゃおう
（もしも、空中浮遊都市にすんでたら？）

もっともっと、思い描いちゃおう
（もしも、あの　ふぁるこん が、古馴染みだったら？）

よく考えたら、チト怖い?もしもも
（もしも、無限迷宮に迷い込んだら？）

目や脳や　じぶんのこころは
それぞれのために、記憶の記録　編集して行くって

それぞれのなか　地層　それぞれごとの、ほんとうやせかい
なんでもしほうだいorそまつにする ものでは　ないとしても

わかってきたようで、もうなぞはないようで
謎まみれ　発見まみれのなか　つらなっていく日々

もしも見たことないような何かが、見たことないような方法で
あたたまるこたつの傍　ｽｯと羽をすぼめ　あいさつしていたら？

・　・　・

犬先生「私ならばまず、におい嗅ぐな。　そして”やぁ”」

ラクシャさん「僕はまず挨拶そして 相手の尾をみるかな？」

カタミくん「お二人とも、わんこ してるなぁ～

ちなみにぼくは、まず全身かたまるかとっ…」

くうかん

くうかん、ふしぎ

１つであるようで　いくつもあるようで

宇宙いま　だんだんどんどん　ふくらんでいるらしい

多元宇宙と　考える人もいる

外からみたら形は？と考えると
フトその「外」が　よくわからない

気体ぐるぐる星の中
灯台みたいな、パルサーの中
こうこうとめぐる　月の中

そのなかに　なにがある？

ちきゅうの中の、とちのくにのまちのいえの　なか

ｺｺﾛに銀河をひろげながら、フト また思った

少しずつずれながら　でも少し　二重写しのように

似ているようで違うわたしのいる空間が

いま、通り過ぎていたら？

こたつから ころげ出た、まんまる仔犬にひき
だれもいない空間を　みつめている

・　・　・

犬先生「おや、だれもおらん…
ふむ、こたつを高くするか」

ラクシャさん「あれ、２人いないのか
では甘栗の数、３等分して、と…」

カタミくん「こたつ布団 長さ足りないし、
甘栗のにおいだけするﾅｧ…」

たくさん

まだまだ、ふしぎ

あたりまえのくりかえし？
では、ない中の　あれや これ

植物と動物　進化のどこで　わかれたのかな？

ふぁくしみりって、どういうしくみ？

じかんや暦　一斉に花がさいたり、紅葉したり
古代も未来も　こころもかたちも　細胞の機能も

考えているうち、ふと
そう考えながら、寒がりながら　まちのかたすみ　あるく

じぶんが不思議に　思えてきたよ

どうして、何もないところで　昔からよく転ぶかな？

みかんがこんなにも大好きなのは　ナゼだろう？

ヘンテコなものが　無性に気になるのは？

こたつにもぐり、殻を持つ生物のようになって
まどろみ夢見るむこうで

まぼろしのいぬたちが　懐かしげに　尾をゆる振る

・　・　・

犬先生「やぁ諸君、所定の年越し位置についたかね
では早速魔域つあーへ…」

ラクシャさん「行かないよ。
みなさん、暖かくして、よい年越しを」

カタミくん「ゆる夢つづり、よろしゅうですっ！」

こたつとみかんと、こといぬと

いぬせんずの こたふぃろtime

http://p.booklog.jp/book/80937

著者：謡犬　ユネ
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/80937

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/80937

こたつのお話、2013年12月版もできました。
哲学のような、なんかちがうような…
カケラでも「おっ」と思っていただければ何よりであります。

では、よきお年をっ！

※2014／1／2　顔アイコン絵の表示不良を修正しました。

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ